

# 春野町における民間口承文化財(昔話)の伝承による地域文化の保存継承

静岡文化芸術大学 文化政策学部 二本松康宏ゼミ

指導教員：教授 二本松康宏

参加学生：3年生 伊藤優華、藤井優、吉高里

4年生 稲葉夏鈴、岡田真由子、小林由芽、玉置明子、中谷文音、毛利とわ

※ 4年生6名はサポート参加

## 1. 要約

浜松市天竜区春野町において民間口承文化財(昔話)を採録し、その記録と保存、公開と継承を目指す。

地域に伝わる伝説や家庭に受け継がれた昔話は、その土地に生きた人々の心と記憶の遺産である。しかし、近年の加速度的な高齢化と過疎化によって昔話の伝承は急速に消え去ろうとしている。その記録と保存、公開と継承は、地域アイデンティティの再生と文化財保護の観点において緊急の課題である。

二本松康宏ゼミ(伝承文学)では、平成26年度、27年度、28年度にわたって同区水窪町において水窪協働センターと連携し、民間口承文化財(昔話)の採録調査を実施してきた。平成29年度は同区龍山町において龍山協働センターおよび浜松市社会福祉協議会龍山事務所と連携し、同じく民間口承文化財(昔話)の採録調査を実施した。その成果は年度ごとに書籍として刊行され、日本昔話学会等においても高い評価を受けている。

そうした実績を踏まえ、平成30年度からは3ヶ年計画によって春野町において同様の採録調査を実施することになった。1年目にあたる平成30年度は春野町のうち熊切地区を採録の対象地域とする。

採録した昔話は学術的な位置付けや記録価値を検証し、「民間口承文化財」としての保存(アーカイブ)を目的として「方言のまま」「語り口のまま」に翻字・記録する。伝承地域の解説などを書き添え、これまでと同じように書籍としての刊行・公開を目指す。

浜松市天竜区春野町

世帯数 1829 世帯

人口 4320 人

65歳以上 2172 人 (高齢化率 50.28%)

14歳以下 247 人 (5.72%)

春野町 熊切地区

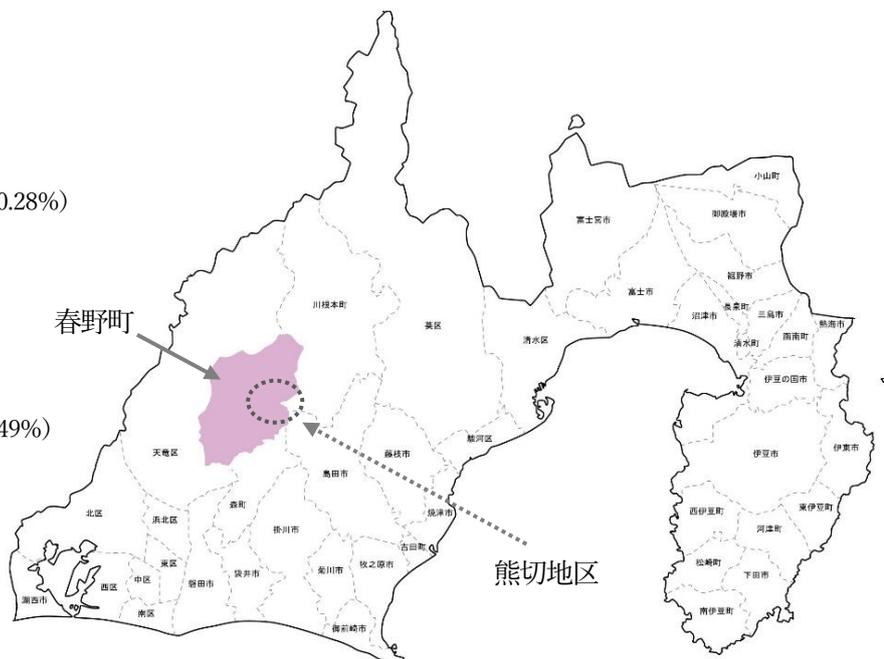
世帯数 282 世帯

人口 709 人

65歳以上 358 人 (高齢化率 50.49%)

14歳以下 28 人 (3.95%)

(平成30年10月1日 住民基本台帳)



春野町の略年表

昭和31年(1956)

周智郡犬居町と熊切村が合併し、春野町が成立

昭和32年(1957)

春野町と気田村が合併し、あらためて春野町となる

平成17年(2005)

天竜市、佐久間町、水窪町、龍山村など2市8町とともに浜松市へ編入

平成19年(2007)

浜松市は政令指定都市に移行し、春野町は天竜区春野町となる

## 2. 研究の目的

### (1) 昔話の調査と研究の現状

日本各地の山間地域では極端な高齢化と過疎化が進み、かつてのように昔話を語り伝える人々は急激に減少している。それは地域におけるコミュニティとアイデンティティの危機でもある。

1970年代から1990年代前半にかけては日本昔話学会の前身となった昔話研究懇話会や日本口承文芸学会を拠点として、多くの大学のゼミや研究会によって組織的かつ本格的な昔話の採録調査が展開され、調査報告書の公刊が相次いだ。しかし2000年頃から、そうした調査がきわめて困難になったといわれる。それには以下のような事情が考えられる。

- ① 「お年寄り」の減少 → 高齢者は増えたが、戦後の高度経済成長を支えて働いてきた人たちは昔ながらの昔話を語るような「おじいちゃん」「おばあちゃん」ではなくなった。
- ② 少子化の影響 → 山間地域では極端な少子化が進み、孫と同居する高齢者が減ったため、高齢者は自分が幼少期に聴いた昔話を自分の孫に語る機会がなくなった。現役の語り手ではなくなった。

### (2) 春野町熊切地区における昔話の伝承環境

熊切地区は集落全域が山間地に散在する。春野町の3地区のうち人口が最も少なく、浜松市に編入以降の人口の減少率および世帯の減少率は他の2地区と比較しても高い。人口709人(平成30年10月1日現在)のうち、65歳以上の高齢者が358人、高齢化率は50%を超える。14歳以下の子どもの数は28人、人口比は4%に満たない。典型的な少子高齢化の進んだ地域である。

高齢者たちは孫と暮らすことが少なく、幼いころに聞いた昔話を次世代に語る機会がないまま、その伝承はまさに消え去ろうとしている。

(平成)	春野町全体	熊切地区	気田地区	犬居地区
17年	6,201	1,113	3,267	1,821
18年	6,067	1,081	3,223	1,763
19年	5,917	1,044	3,154	1,719
20年	5,759	1,018	3,071	1,670
21年	5,633	990	3,008	1,635
22年	5,518	965	2,938	1,615
23年	5,378	930	2,868	1,580
24年	5,249	910	2,791	1,548
25年	5,103	877	2,714	1,512
26年	4,930	842	2,640	1,448
27年	4,779	808	2,575	1,396
28年	4,628	775	2,473	1,376
29年	4,468	773	2,394	1,341
30年	4,320	709	2,308	1,303
人口減少率	30.3%	36.3%	29.4%	28.4%
世帯減少率	9.9%	14.8%	7.0%	12.3%

### (3) 春野町におけるこれまでの取り組み

昭和60年(1985)には、当時の春野町に伝わる伝説27話を収めた『ふるさと春野の伝説』が旧春野町教育委員会により刊行されている。しかし、残念なことに同書には掲載された27話はすべて「昔話」ではなく「伝説」に分類されるものであり、しかもすべて再創作(再話)と標準語化によって語りが整えられている。そのため口承文化財の記録としての価値・評価は限定的と言わざるを得ない。

#### 伝説と昔話の違い

**伝説** … 時代や場所を特定し、その土地では歴史的事実のように信じられている。伝説をよく知る人は、その地域で「古老」「ものしり」として知られているため、採録調査は比較的容易。一般的に男性の語り手が多いとされる。

**昔話** … 時代と場所を特定しない(むかしむかし、あるところに)。多くの場合、家庭内で「子どものおとぎ話」として語り継がれてきたため、他人の前で話すのは「恥ずかしいこと」とされがちで、なかなか表に出にくい。採録には高度な技術が必要。一般的に女性の語り手が多いとされる。

### 3. 研究の内容

- (1) 平成30年5月から平成31年1月までの計画で春野町熊切地区での昔話の採録調査を実施する。
- (2) 集会所・公民館での集団採録。自治会を通じて、高齢者を中心に参加を呼びかける。
- (3) 再採録の必要が見出された語り手には個別採録。
- (4) 採録した話は記録価値などを精査し、「方言のまま」「語りのまま」に翻字・記録する。
- (5) 伝承地域の解説を執筆するための補足調査。
- (6) 書籍として刊行する。



### 採録調査の記録

①	5月26日(土)	集団採録(花島自治会館)	⑫	9月12日(水)	文献調査(春野図書館)
②	5月27日(日)	集団採録(田河内自治会館) 集団採録(筏戸大上自治会館)	⑬	9月13日(木)	文献調査(春野図書館)
③	6月9日(土)	個別採録(筏戸大上、花島)	⑭	9月19日(水)	文献調査(春野図書館)
④	6月10日(日)	個別採録(田河内)	⑮	10月6日(土)	文献調査(春野図書館)
⑤	6月23日(土)	集団採録(越木平自治会館)	⑯	10月13日(土)	補足調査(長蔵寺、田河内)
⑥	6月24日(日)	集団採録(五和自治会館) 集団採録(熊切自治会館)	⑰	10月20日(土)	補足調査(筏戸大上、花島)
⑦	7月7日(土)	個別採録(熊切)	⑱	10月27日(土)	補足調査(越木平、石打松下)
⑧	7月8日(日)	個別採録(越木平、五和)	⑲	11月10日(土)	補足調査(長蔵寺、牧野)
⑨	7月21日(土)	集団採録(長蔵寺自治会館)	⑳	11月24日(土)	補足調査(田河内、五和)
⑩	7月22日(日)	個別採録(越木平、筏戸大上)	㉑	12月1日(土)	補足調査(石打松下、筏戸大上)
⑪	8月4日(土)	個別採録(長蔵寺、五和)	㉒	12月8日(土)	補足調査(田黒、長蔵寺、花島)
			㉓	12月15日(土)	補足調査(花島、越木平)
			㉔	12月22日(土)	補足調査(五和、石打松下)
			㉕	1月12日(土)	補足調査(五和、長蔵寺)

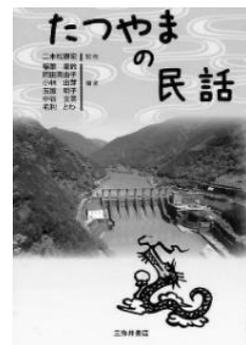
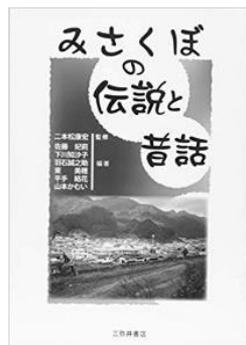
### 私たちのこだわり①…「語りのまま」「方言のまま」

近年では「語り部」として小学校や図書館などで昔話を語り聞かせる活動が広がっている。しかし、そうした活動では子どもにもわかりやすく標準語化され、あるいは再創作(再話)された話が大半を占めている。昔話は地域と家庭に伝えられた文化遺産である。標準語化や再創作は、いわば「文化財の改竄」に等しい。未来に伝えなければならないのは「語りのまま」「方言のまま」の地域の文化遺産である。

### 私たちのこだわり②…書籍としての刊行

私たちが刊行してきた書籍はいずれも600部を刊行し、刊行後は1年以内に約500部が販売されている。公立図書館にも収蔵され、10年先も30年先も、100年先までも利用されることになる。

『水窪のむかしばなし』	浜松市 7図書館	県内 11図書館
『みさくぼの民話』	浜松市 16図書館	県内 17図書館
『みさくぼの伝説と昔話』	浜松市 13図書館	県内 18図書館
『たつやまの民話』	浜松市 11図書館	県内 13図書館



#### 4. 研究の成果

##### (1) 当初の計画

春野町熊切地区において採録調査を実施。採録した昔話は記録価値などを精査したうえで、「方言のまま」「語り口調のまま」に翻字・記録する。伝承の解説を書き添え、書籍として刊行する。

##### (2) 実際の内容とその理由

A（予定どおり）

##### (3) 実績・成果と課題

『春野のむかしばなし』（二本松康宏監修、伊藤優華・藤井優・吉高里編著、三弥井書店、2019年3月、定価1,000円（税別））を刊行予定。

##### (4) 今後の改善点や対策

次年度は春野町犬居地区での採録調査を予定。犬居地区は熊切地区に比べると人口も多く、集落域も広範なので、実情にあわせた柔軟な調査体制が課題になる。行政のサポートだけでなく、地域の自治会との連携をいっそう密に進めたい。

#### 5. 地域への提言

熊切地区における民間口承文化財（昔話や伝説）は語り手たちの高齢化と急速な過疎化によって、いまや風前の灯火というべき状況にある。本来、昔話は世代を超えた地域文化の継承のためのコミュニケーション・ツールであったが、熊切地区には聴き手（語り継ぐべき相手）となる子どもが少なく、家庭における昔話の継承はほぼ不可能と考えざるを得ない。

そこで、地域に伝承された伝説だけでなく、家庭に語り継がれた昔話もあわせて、地域文化として継承して欲しいと願う。たとえば、我々が刊行する書籍『春野のむかしばなし』を気田小学校や犬居小学校、春野中学校での地域学習に取り入れ、地域文化を学ぶための教材にさせていただけるとありがたい。

#### 6. 地域からの評価

我々の取り組みは新聞・報道等でも紹介され、地域の人々からも期待の声が高い。

##### 平成30年度の報道の記録

4月12日(木)	静岡新聞	浜松・龍山の民話一冊に 静岡文化芸術大生 現地で収集、方言そのまま
4月14日(土)	中日新聞	語り部の息遣い収録 龍山伝承82話 一冊に
4月19日(木)	SBS ラジオ	IPPO
4月30日(月)	FM haro!	原田靖子の Smile On Radio
5月 3日(木)	中日新聞	「たつやまの民話」文化芸大生が出版
5月 5日(土)	静岡新聞	浜松・龍山の民話集披露 静岡文化芸術大生、市役所訪問
5月 8日(火)	毎日新聞	学生が天竜の民話集 静岡文化芸術大 浜松市長に贈呈
5月12日(土)	読売新聞	龍山の民話 未来に残す 静岡文化芸大生 82話聞き集め本に
5月16日(水)	静岡新聞	この人 書籍「たつやまの民話」の出版に携わった中谷文音さん
5月27日(日)	静岡新聞	昔話 採録調査を開始 「地域文化遺産残したい」浜松・天竜区春野で静岡文化芸術大生
6月30日(土)	中日新聞	語り継がれた昔話 静岡文化芸大生 春野町を調査
10月26日(金)	中日新聞	春野ジビエ猪鍋 食べて 静岡文化芸術大生 来月学園祭で販売
10月27日(土)	静岡新聞	「春野の猪鍋」味を確認 静岡文化芸術大生 大学祭で販売へ
11月29日(月)	FM haro!	原田靖子の Smile On Radio
10月30日(火)	毎日新聞	春野の山の しし鍋提供 伝承文学ゼミ生 天竜区の郷土料理
11月 2日(金)	読売新聞	猪鍋 地酒で煮込み軟らか 静岡文芸大 学園祭で販売